

クイーンのひろば
(横浜税関資料展示室)

所在地:横浜市中区海岸通1-1
横浜税関本関1階

入場料:無料
開館:10:00~16:00
(5~9月は10:00~17:00)

休館日:年末年始、施設点検日

特色:開港からの横浜の歴史や貿易の変遷、麻薬・けん銃などの密輸の手口、偽ブランド商品などを実物や展示や映像により紹介しています。また、お仕事体験コーナーでは、ファイバースコープや金属探知機の使用体験もできます。

横浜開港160周年



神奈川運上所

徳川幕府は、1859年(安政6年)、神奈川運上所を設置し、横浜港を諸外国に向けて開港しました。明治維新後、神奈川運上所は新政府に引き継がれ、1872年(明治5年)には横浜税関と名称を改め、今日に至っています。

開港から160年間にわたって外国貿易を通じ、日本の発展に貢献してきた横浜税関は、今も海の玄関・横浜港を守り続けています。

税関では、輸出入されるすべての貨物の許可や関税等の徴収のほか、覚醒剤やけん銃等の社会悪物品の取締りを行っており、最近では、有害廃棄物、盗難自動車の不正輸出や知的財産を侵害する偽ブランド商品等の取締りにも力を入れています。



安全・安心な社会を目指して
横浜税関



(2019.06)

■ 横浜税関の歩み

嘉永 6年 (1853)	6月	ペリー来航
安政元年 (1854)	3月	横浜で日米和親条約締結
安政 5年 (1858)		米・蘭・露・英・仏と修好通商条約締結
安政 6年 (1859)	6月	横浜・函館・長崎開港「神奈川運上所」設置
慶応 4年 (1868)	3月	明治維新政府が運上所を接收、県の機関とする
明治 4年 (1871)	8月	運上所が大蔵省(現・財務省)の機関となる
明治 5年 (1872)	11月	運上所の呼称を「税関」に統一
明治 6年 (1873)	12月	横浜税関の本格的な庁舎(初代)竣工
明治16年 (1883)		初代庁舎・敷地を神奈川県庁へ8万円で譲渡
明治18年 (1885)	11月	横浜税関2代目庁舎竣工
明治22年~29年 (1889~1896)		大棧橋・象の鼻地区等の整備(税関の管理施設)
明治32年~大正6年 (1899~1917)		新港埠頭を税関構内施設として整備(含・赤レンガ倉庫)
大正12年 (1923)	9月	関東大震災(税関庁舎も消失)
大正13年 (1924)	12月	港湾行政を税関に一元化
昭和 9年 (1934)	3月	横浜税関3代目庁舎竣工(含・クイーンの塔)
昭和18年 (1943)	11月	税関廃止、海運局に統合
昭和20年 (1945)	8月	横浜税関庁舎(本関)がGHQ総司令部として接收
昭和21年 (1946)	6月	税関再開
昭和28年 (1953)	8月	横浜税関から東京税関が独立
昭和28年 (1953)	11月	横浜税関庁舎(本関)接收解除

■ 横浜港主要輸出入品目の推移

	明治元年 (1868)	大正元年 (1912)	昭和元年 (1926)	昭和25年 (1950)	平成元年 (1989)	平成30年 (2018)
輸出	①生糸 ②蚕卵紙 ③茶	①生糸 ②羽二重 ③銅	①生糸 ②羽二重 ③蟹缶	①生糸 ②鉄 ③銅	①自動車 ②事務用機器 ③映像機器	①自動車 ②自動車の部品 ③原動機
輸入	①綿織物 ②兵器 ③綿糸	①繰綿 ②鉄 ③機械	①繰綿 ②小麦 ③木材	①小麦 ②石油 ③砂糖	①非鉄金属 ②自動車 ③原油	①原油 ②非鉄金属 ③天然ガス

初代庁舎
(一八七三~一八八三)



二代目庁舎
(一八八五~一九二二)



三代目庁舎
(一九三四~)



庁舎所在地変遷



横浜港発祥の地の今昔 横浜開港160年と税関

※関東大震災直前の地図に——で現在の海岸線を重ねています。

旧税関事務所遺構



大正3年(1914)に建設された煉瓦造りの税関事務所。船舶の係留、貨物の取扱い等の事務を行っていました。
この建物には、ガス暖炉、白熱電灯、給水管等、当時としては最先端の技術が用いられていました。また、特別応接室は貴賓の休憩にあてるため、豪華に造られていました。
大正12年の関東大震災により瓦解。

赤レンガ倉庫



赤レンガ倉庫は、税関が輸出入貨物を管理するために、明治末期から大正初期にかけて建設した当時最新鋭の倉庫でした。関東大震災により1号館の半分が壊れました。
平成4年に国から横浜市に譲渡され、平成14年、今日のような商業・文化施設としてリニューアル・オープンしました。

万国橋の税関マーク



かつてここは税関構内の入り口でした。橋のたもとに税関マークが彫られています。



税関は、港の番人！
横浜港発祥の地であるこの付近は、
税関ゆかりの古い物がいっぱい残っているんだね。
税関って、昔からぼくたちの生活を守ってくれてるんだ！

税関倉庫跡



写真:公園整備前 平成19年1月撮影

明治29年頃に建設された横浜税関倉庫(当時の地図には「煉瓦二階建倉庫」と記されている)のレンガ造りの土台及び物揚場らしき石畳。土台の一部には関東大震災で焼けたとみられる箇所もあり、歴史を感じさせます。

貨物線路転車台跡



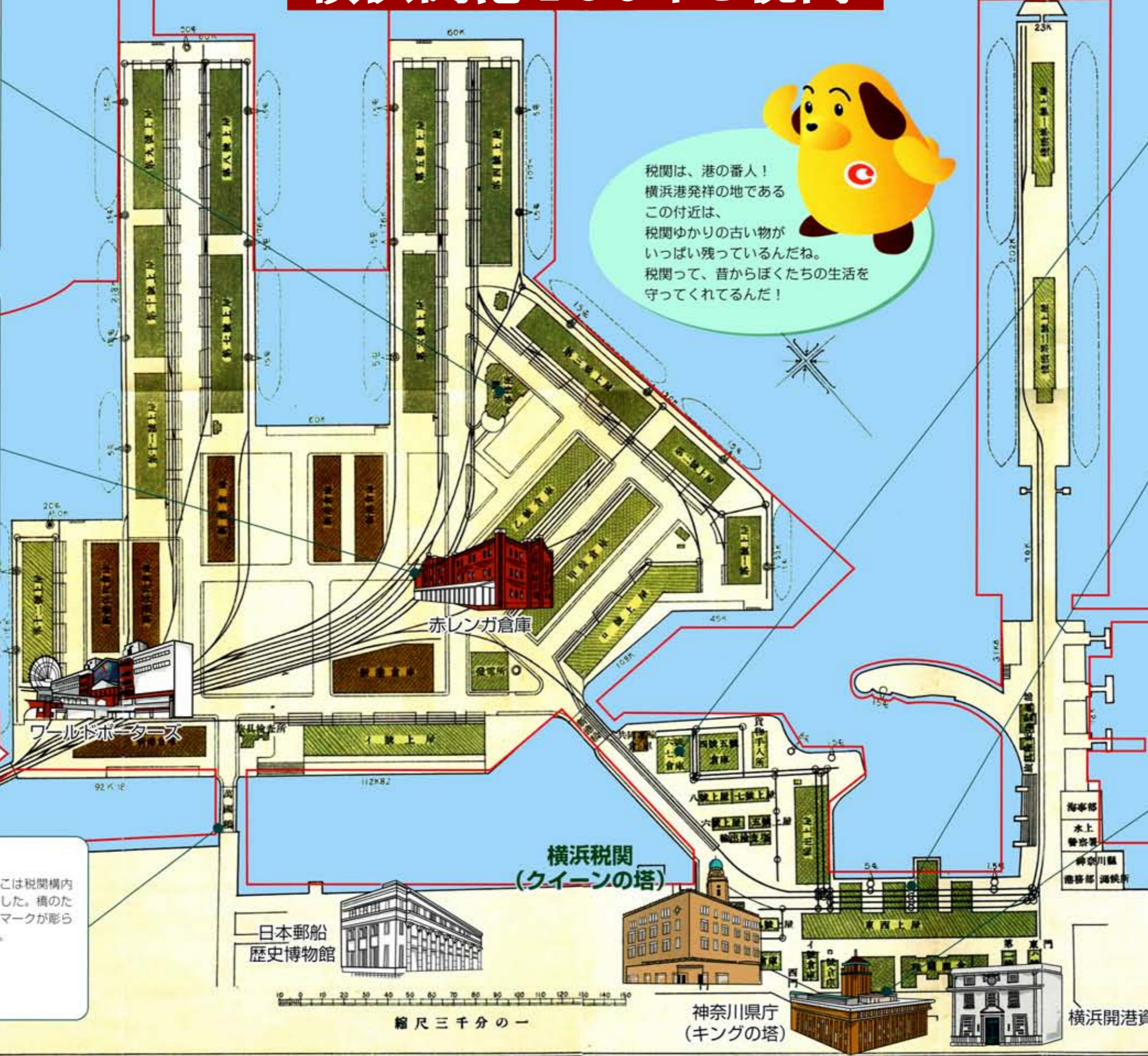
写真:公園整備前 平成20年5月撮影

開港150周年記念事業として整備中の「象の鼻地区」から、横浜税関二代目庁舎(明治18~大正12年)構内の倉庫(輸入上屋)の遺構が発見されました。
写真は、岸壁の起重機で船から陸揚げした貨物を税関構内の倉庫に運搬する貨車の線路等のほか、石造りとレンガ造りの土台です。

神奈川運上所跡



安政6年(1859)、横浜開港のため、神奈川運上所が開設されました。
運上所は関税事務及び外交事務を担う機関であり、後に横浜税関となりました。
明治16年、この地にあった税関庁舎を県庁に譲渡し、税関は、かつて運上所があった象の鼻地区に戻りました。
新しい税関庁舎は後に関東大震災で焼失し、昭和9年(1934)、現在の地に税関庁舎が建設されました。



日本郵船 歴史博物館



神奈川県庁 (キングの塔)



横浜開港資料館

縮尺三千分の一